

## 教育改革、次のステップへ ～基盤教育の確立から、学士課程教育全体の改善、充実へ～

「3つのポリシー」とは？

ディプロマ・ポリシーとは、卒業認定・学位授与に関する方針、カリキュラム・ポリシーとは、教育研究課程の編成・実施に関する方針のこと。これらと、入学者受け入れに関する方針であるアドミッション・ポリシーの3つのポリシーが、中央教育審議会がまとめた答申（「我が国の高等教育の将来像」平成17年1月28日）においてその必要性が強調された。

「教育を通して、学生により力強く、より豊かに生き抜くための「人間力」を身につけてもらうこと」を目標として、山形大学は教育改革に取り組んでいます。

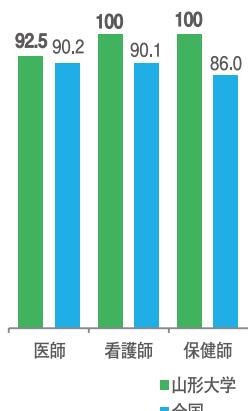
その第一歩として、平成22年度入学生から、これまでの「教養教育」に代えて、新しい教育カリキュラム「基盤教育」を導入しました。学士課程を通して「人間力」を身につけるための基盤となる知識・技能や課題探求能力を確実に習得できるよう、導入科目、基幹科目、教養科目、共通科目及び展開科目の5つのカテゴリに体系化されたカリキュラムを提供するシステムで、全国の大学の中でも先駆的な試みです。

その基盤教育も導入から2年が経過し、教育改革は学士課程全体の改善と充実へと歩みを進め、各学部等においては、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーのいわゆる3つのポリシーを明確化し、本年3月に公表しました。

また、文部科学省大学教育推進プログラム採択事業「到達目標を明確にした自己実現学習システム」の成果により、学部、学科における学習成果と教育目標を明確化・体系化し、学生が主体的に学ぶための支援ツールとして、学習ポートフォリオシステムを整備しました。

今後はこれらの取り組みを定着・発展させるため、FD活動による教育内容の改善等を通して、山形大学は引き続き不断の教育改革に努めます。

※参考 平成23年度  
国家試験合格率(%)



山形大学医学部看護学科の平成23年度国家試験合格率は、看護師、保健師とともに100%となりました。



### 医学部の教育改革

医学部では学生教育を最も重視し、様々な教育改革に取り組んでいます。平成22年9月に、中・長期的な視点での教育改革指針を策定し、1年次の初期教育から順次カリキュラムの改善を図っています。

医学部で重視するのは、医学・医療の発展を担う有為な医師、医学研究者の育成であり、劇的に進歩する医学・医療に追随するのみでなく、これらを自ら進化させることにより社会に貢献する人材を育成することにあります。このため、専門的な知識の習得のみならず、臨床での実践力、すなわち臨床参加型の学生実習を重視しています。教育改革の一例として、平成21年度には「Student Doctor」、翌年度には「Student Nurse」の認証制度を全国に先駆けて導入しました。

また、医学科では、平成24年1月に、県内の中心病院である、日本海総合病院、公立置賜総合病院及び山形市立病院済生館の3病院と協定を締結し、地域医療を重視した学外臨床実習を開始しました。今後順次関連病院を拡大していく予定です。看護学科では、地域の産科医療に貢献するため、平成24年度入学生から助産師コースを設け、即戦力となる人材の育成を目指しています。

さらに、大学院教育では、がんプロフェッショナル養成プランを推進するとともに、東北のがん医療の高度化・均てん化を図るために、e-ラーニングによるがんEBM教育

を実践し、がん専門医の育成を進めております。

医師の生涯教育に貢献するプログラムも充実させてきました。これまでのリフレッシュ教育（医師、看護師）に加えて、超高齢化社会に対応する医療人を育成するためには在宅医療・在宅看護教育センターの設置を準備しております。

また、平成24年7月に、研修医専用の宿舎であるレジデントハウスを医学部キャンパス内に設置し研修医のためのアメニティーの改善にも取り組んでいます。



レジデントハウス外観

## 実践的な教育研究の展開～附属学校の取組～

山形大学では、附属学校の効率的な運営をもとに、実践的な教育研究活動の充実を目指しており、平成21年度には、附属学校園を教育学部附属から大学附属とし、学校園ごとの運営体制から、大学が附属学校園全体の運営を統括する体制としました。

平成23年度は、教育実習の質的向上を図るため、近隣の市町村教育委員会と連携し、地域教育文化学部、人文学部、理学部学生の教育実習を、大学が責任を持って実施するよう改善しました。これにより、中学校の母校実習を廃止し、平成24年度には、附属中学校と5市2町の教育実習協力校31校において、計258人の学生の教育実習を実施、実施後は、実習生及び実習校に対するアンケートをもとに、実施の体制や時期等の改善を図りました。

また、附属学校園間の連携を強化し、円滑な接続と相互交流による一貫性の高い教育を提供するために、「特別支援コーディネータ」及び「メンタルケア・コーディネータ」を新たに配置し、心の問題を抱えていたり、特別な支援を必要とする幼児、児童、生徒の指導を中心に、附属学校園を相互につなぎ、きめ細やかな教育を実現しました。

また、平成24年度は、文部科学省高等教育局大学振興課教員養成企画室による講演会を開催し、附属学校が担う実践研究と課題への理解を深めました。

教育を学ぶ側である実習生や教育を受ける側である幼児、児童、生徒にとっても、充実した経験が与えられる場となるよう、そして、より実践的な教育研究が展開できるよう、附属学校のよりよい運営に取り組んでまいります。

### 教育分野ランキング (学長からの評価)

1	金沢工業大学
2	国際基督教大学
3	国際教養大学
4	立命館大学
5	桜美林大学
6	山形大学
7	立命館アジア太平洋大学
8	東京大学

(出典:週刊朝日  
「大学ランキング 2013年版」)



学生1人当たり図書\*

**623千円 (118冊)**

(参考)  
昨年度615千円 (116冊)

\*図書／学生数